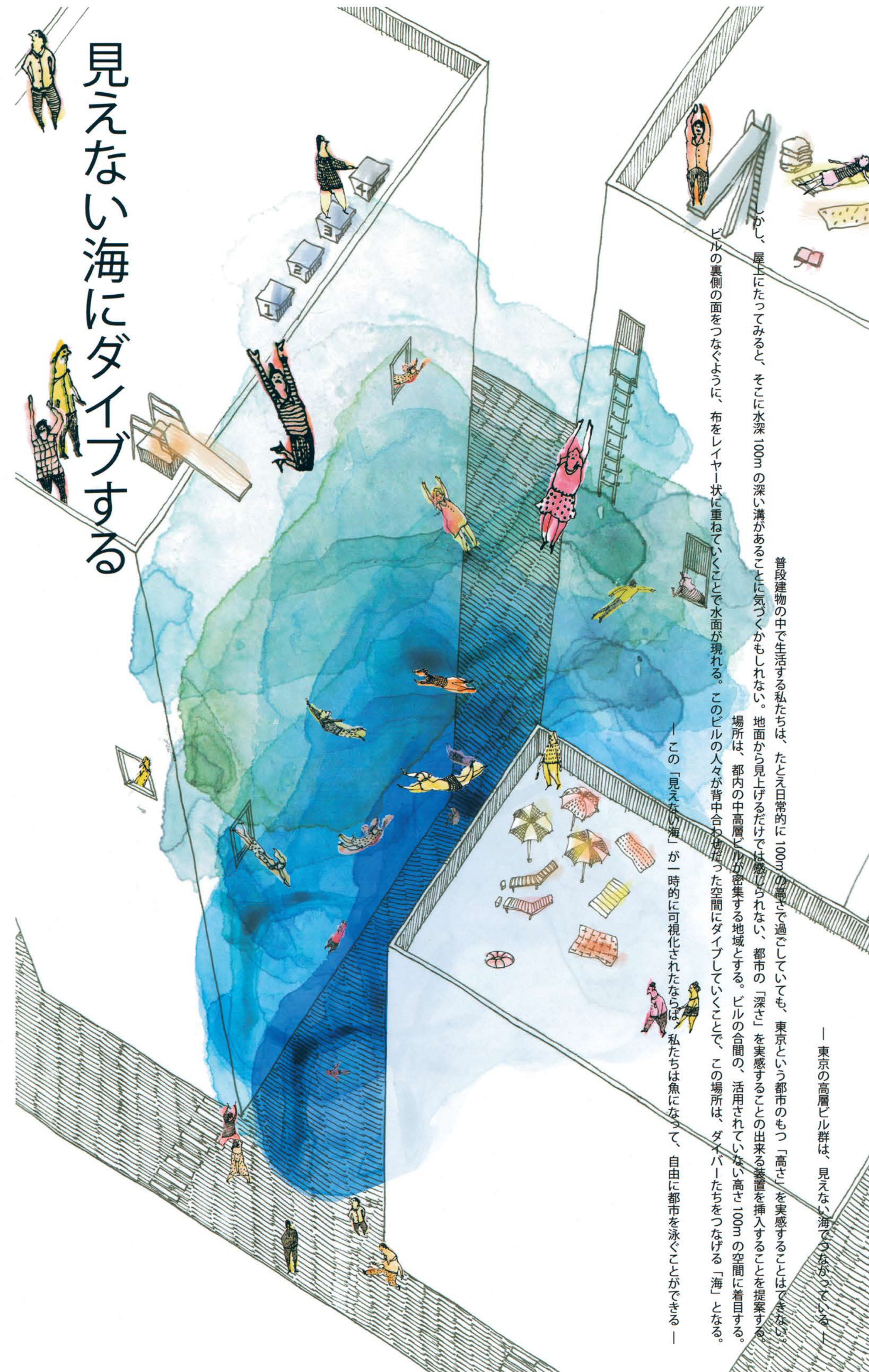


見えない海にダイブする



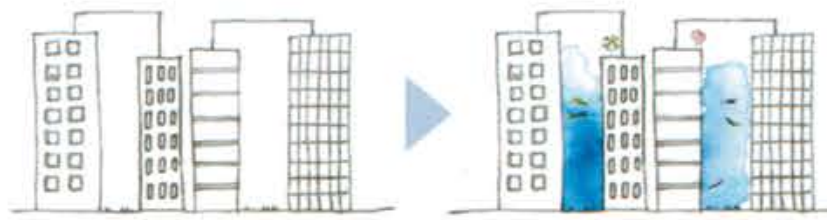
しかし、屋上にたってみると、そこに水深100mの深い溝があることに気づくかもしれない。地面から見上げるだけでは見えない、都市の「深さ」を実感することの出来る装置を挿入することを提案する。場所は、都内の中高層ビルが密集する地域とする。ビルの合間の、活用されていない高さ100mの空間に着目する。この「見えない海」が一時的に可視化されたならば、私たちは魚になって、自由に都市を泳ぐことができる。

普段建物の中で生活する私たちは、たとえ日常的に100mの高さで過ごしていても、東京という都市のもつ「高さ」を実感することは出来ない。地面から見上げるだけでは見えない、都市の「深さ」を実感することの出来る装置を挿入することを提案する。場所は、都内の中高層ビルが密集する地域とする。ビルの合間の、活用されていない高さ100mの空間に着目する。この「見えない海」が一時的に可視化されたならば、私たちは魚になって、自由に都市を泳ぐことができる。

— 東京の高層ビル群は、見えない海でつながっている —

1 潜る

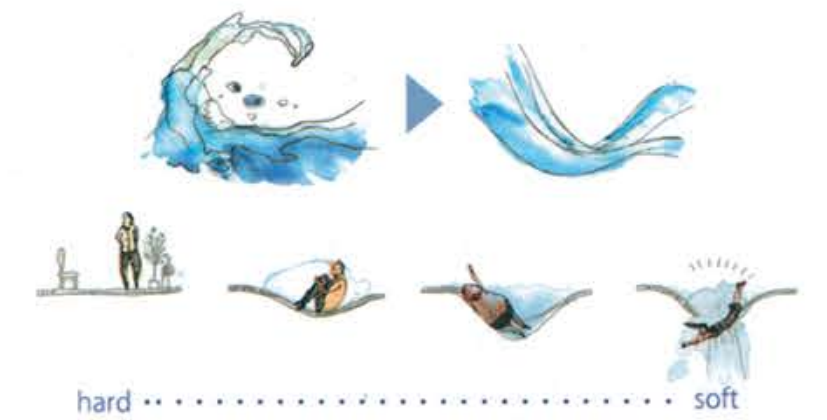
360度、都市のパノラマの中を潜っていく。



東京の高層ビル群の高さは、街に深い溝を生み出す。もしそこに水が張られたら、東京は格好のダイビングスポットに生まれ変わる。屋上は水面に、地面は海底になり、人々は都市を泳ぎはじめる。

2 浮かぶ

力を抜いて、ゆったりとたどってみる。



水のたぶんとした感触を布に置き換える。やわらかい布は身体をゆるやかに包み込み、波のように受け止める。硬さを持った布は歩行やお茶などの行為を化の可能にする。風や人の動き波を作り出す。

3 見上げる

水面から降り注ぐ、やわらかな光に気づく。



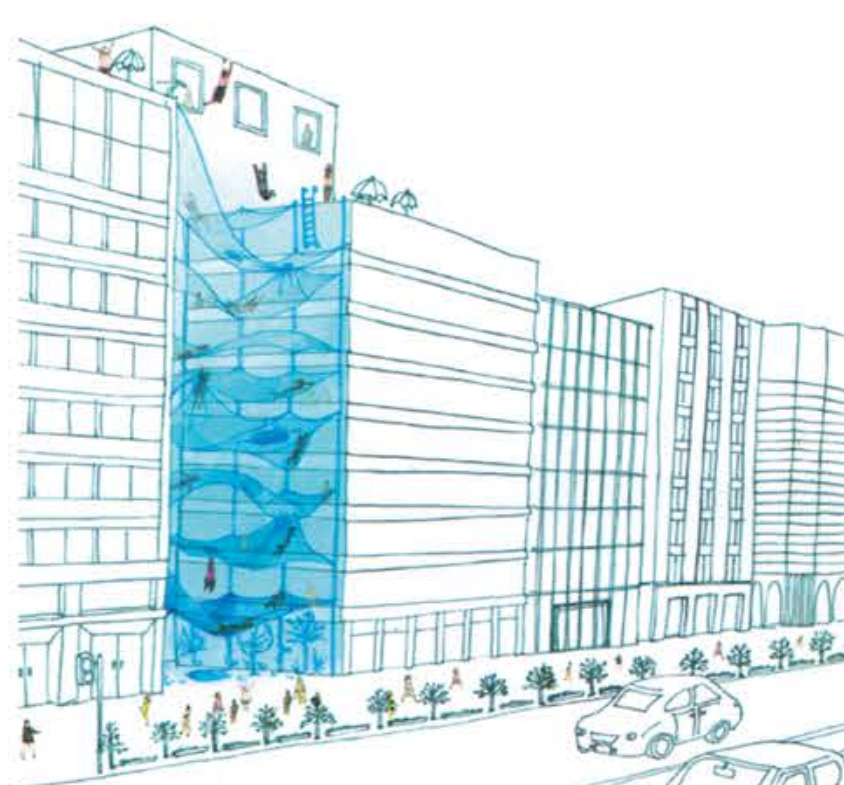
太陽の光は、布の層をやわらかく落ちてくる。「部屋」にいる人が出す光は、海のなかで深海魚のようにあたたかく照らす。ビルに居る人も、布を通して揺らぐやわらかい光を感じられる。

4 出会う

海は、どこまでもつながっている。

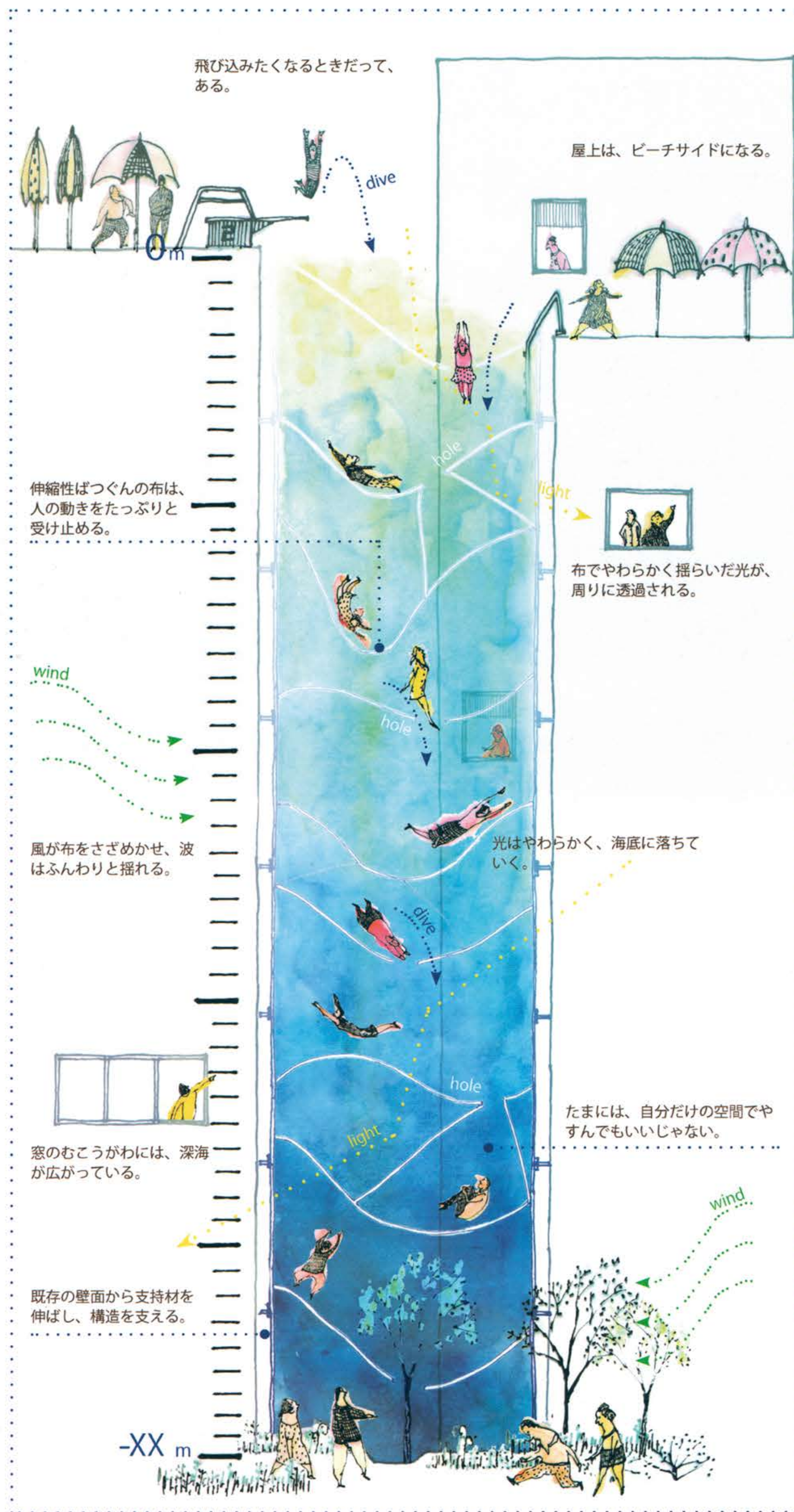


ビルの合間に挿入される海は、ビルとビル、そこで過ごす人々を結び付ける。深く深くもぐって、新しい出合いを体験する。



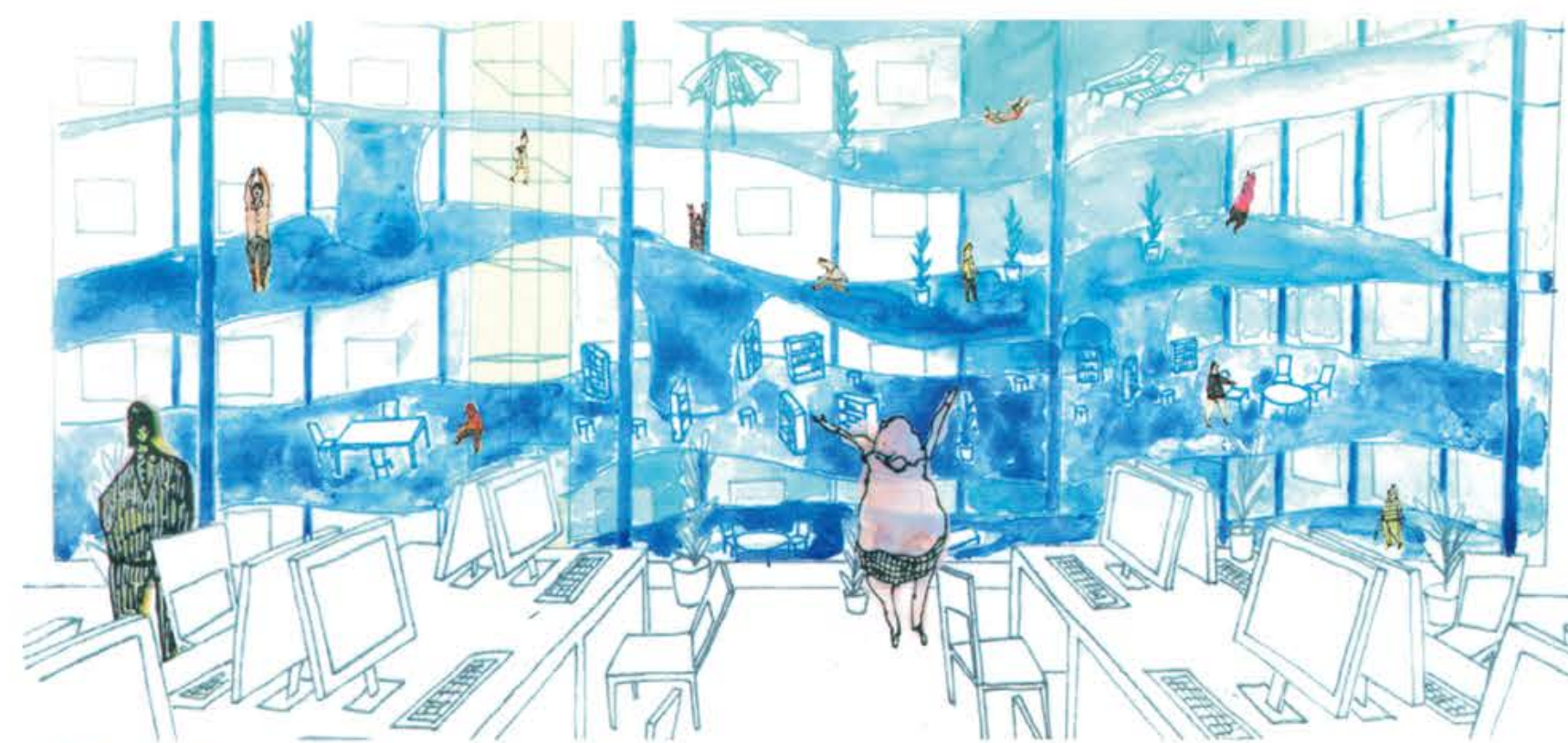
ビルのファサードの中に海が生まれる

飛び込みたくなるときだって、ある。

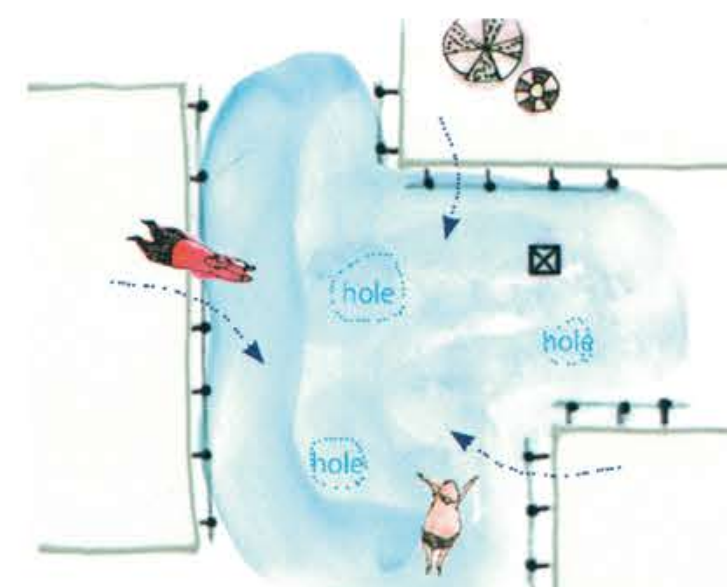


■断面図

ビルの合間に層状に布をめぐる。普段自分がある高さから、ぐんぐんと「穴」をくぐって深海へとダイブしていくことが出来る。風や人の動きで、布は海面のようにゆらゆらと揺れる。周囲のビルの隙間に挿入したこの「海」は、普段は会うことのない違うビルで働く人々を結び付け、新しい出会いと新しい感覚を提供する。

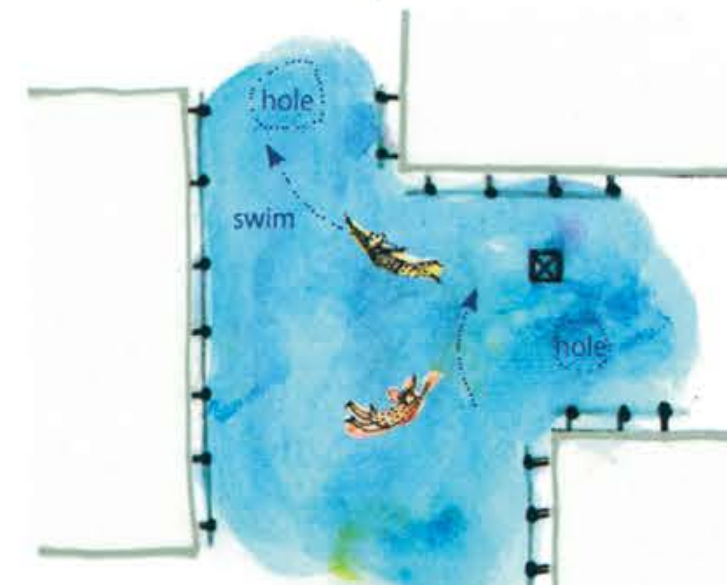


周囲のビルでは、水族館のような景色が広がる



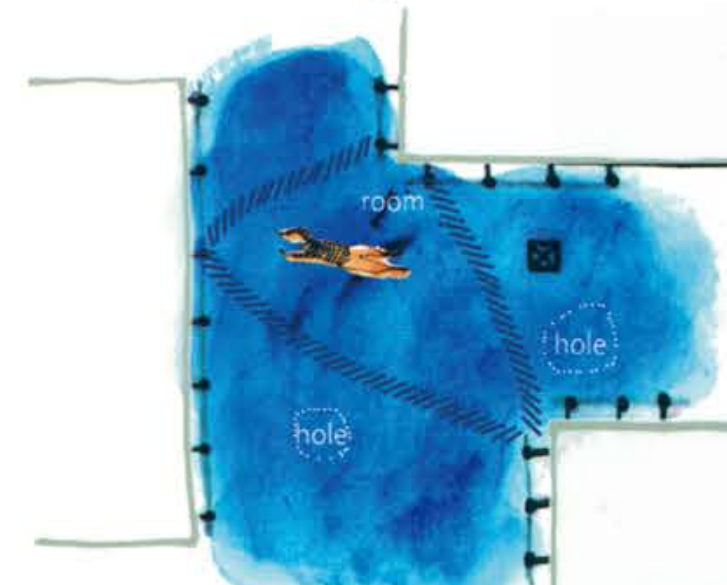
■浅瀬

周辺のビルの人々が、自由に集まってにぎやかな場になる。太陽の光をさんさんに浴びて、のんびり日光浴ができるエリア。



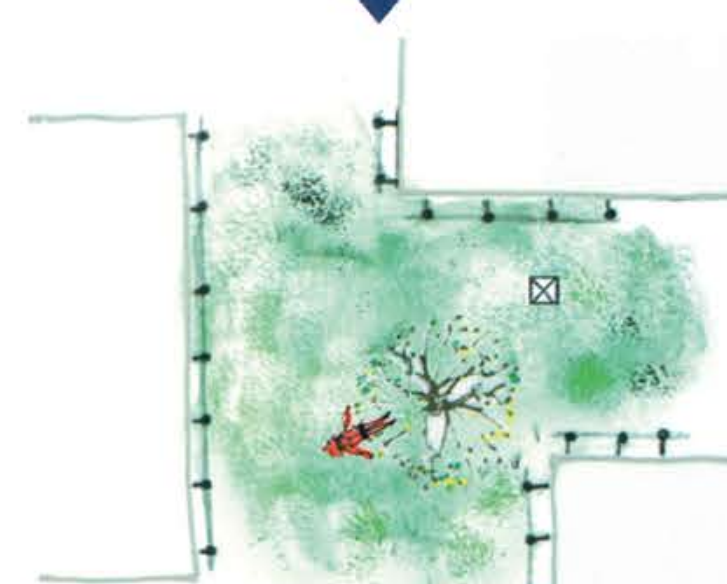
■沖合

自由に広々と活動できる場所。数人で跳ねてみたり、思いっきり走り回ってみたり。ふわふわの波の中でしか出来ない感覚を得る。



■深海

部屋につく穴を見つければ、自分だけの場所を発見できるかもしれない。ひとりで静かに過ごせるような、ひっそりとした場所。



■海底

一番底には、草や木が揺らめいている。上を見上げれば、ゆらゆらとビルの合間を泳ぐ人々が見える。



ビルの隙間を浮遊する